

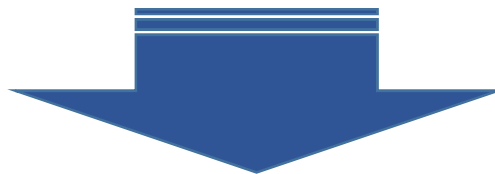


民間プール等活用モデル事業の成果・課題、
今後の方向性について

1. 民間プール等活用モデル事業の概要

<背景>

- ◆外部人材を活用した質の高い授業づくりが求められていること
- ◆子どもの人数の減少に伴い、学校プールを維持するのにかかる子ども1人あたりのコストが増加していること
- ◆学校プールの老朽化に伴い、改修や補修が必要なプールが増加していること



民間プール施設等において、インストラクターを活用した効果的な水泳授業をモデル小学校で実施し、効果検証等を行い、市内全小学校（※）での実施を目指す。

※プールを新築して間もない学校などを除いて実施を検討

2. 期待される効果

- ① 民間ノウハウを授業に取り入れることにより、教育効果が高まる。

- ② 学校プール施設の維持費等の削減ができる。

- ③ 屋内プールで水泳授業を行うことで、天候に左右されずに良い環境の中で水泳授業が実施できる。

3. これまでの実施状況

年度	学校数	クラス数	実施施設数	備考
平成30年度	1	4	1	
令和元年度	2	12	2	
令和2年度	9	68	9	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
令和3年度	12	159	10	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
令和4年度	19	256	11	
令和5年度 (予算)	20	327	10	

4. 水泳授業の内容

- 基本的な水泳授業の立案および進行は、教員が行うため、インストラクターは、教員の指示のもと、水中での補佐、模範演技、全体へのアドバイスなどを行う。
- 1クラスにつき1名のインストラクターを配置する。
- 基本的に午前中を前半と後半で分け、前半2クラス、後半2クラスで行う。※アクアリーナは前後半4クラスずつで実施
- 水泳授業は1クラスあたり年4回行う。



4. 水泳授業の内容

< 基本的なタイムテーブル >

	前半	後半
移動 (徒歩やバス)	8:40～ 8:50	9:45～ 9:55
着替え・体操	8:50～ 9:05	9:55～10:10
水泳指導	9:05～10:10	10:15～11:20
着替え	10:10～10:25	11:20～11:35
移動 (徒歩やバス)	10:25～10:35	11:35～11:45

※ 1回の授業時間は、準備時間等を含め概ね90分間（準備30分、プール30分、休憩5分、プール30分の配分）を基本とする。

5. 令和4年度の取り組み内容

(1) 実施施設及び実施学校

施設名	学校名 (※)		備考
	徒歩移動	バス移動	
グランドパシフィックスポーツ倶楽部	<u>鷹丘小</u>	<u>東田小</u> 、 <u>嵩山小</u>	
パシフィックスポーツ倶楽部豊橋	<u>高師小 (3～6年生)</u>	<u>高師小 (1～2年生、特支)</u>	
アイレクススポーツクラブ豊橋ミラまち		栄小	
アスカスポーツいむれ	<u>飯村小</u>	多米小	令和5年5月より (株)コパンに事業譲渡
アスカスポーツこもぐち	<u>松葉小</u>	下地小	令和4年9月末で 営業終了
アスカスポーツこいけ		<u>松山小</u> 、羽根井小	令和5年4月より (株)コパンに事業譲渡
サーラススポーツ豊橋	<u>豊小</u>		
アクアヴィータプール&スパ	<u>向山小</u>	<u>八町小</u>	
コナミスポーツクラブ豊橋		<u>つつじが丘小</u>	
アクアリーナ豊橋		<u>吉田方小</u> 、牟呂小	
りすば豊橋		<u>野依小</u> 、天伯小	

※太字下線の学校は全学年実施

5. 令和4年度の取り組み内容

(2) アンケート調査の実施

< 調査概要 >

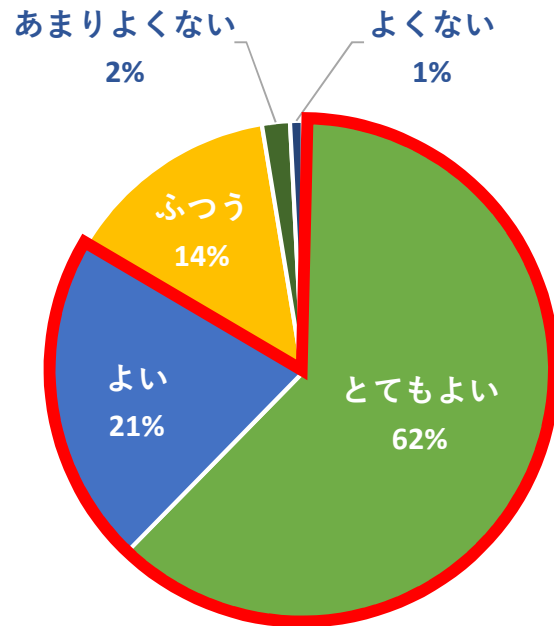
- ・ 実施対象 令和4年度に民間プール施設等で水泳授業を実施した
学年・学級の児童、保護者、教員
- ・ 実施方法 電子申請システムによる回答
※児童はG I G Aタブレット端末により回答
- ・ 回答率 児童 74.4% (5,428人/7,300人中)
保護者 47.0% (3,428人/7,300人中)
教員 100% (93人/93人中)

5. 令和4年度の取り組み内容

(2) アンケート調査の実施

① 児童アンケート (n=5,428)

i) 学校ではなく、民間プール施設等を使った水泳の授業について
どう思うか。



民間プール施設等を使った水泳
授業について、
83%の児童が「とてもよい」
または「よい」と答えている。

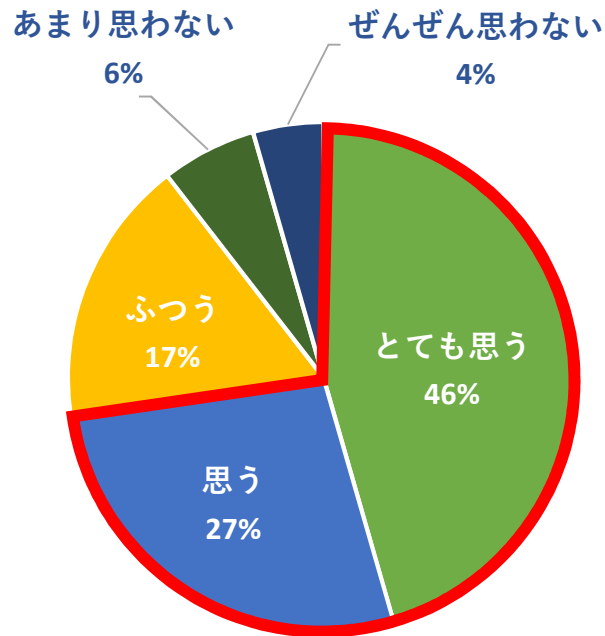
■とてもよい ■よい ■ふつう ■あまりよくない ■よくない

5. 令和4年度の取り組み内容

(2) アンケート調査の実施

① 児童アンケート (n=5,428)

ii) 今年の水泳授業がはじまったときに比べて、「自分は泳げるようになった」と思いますか。



「今年の水泳授業が始まった時に比べて、自分が泳げるようになった」と感じている児童が **71%** いる。

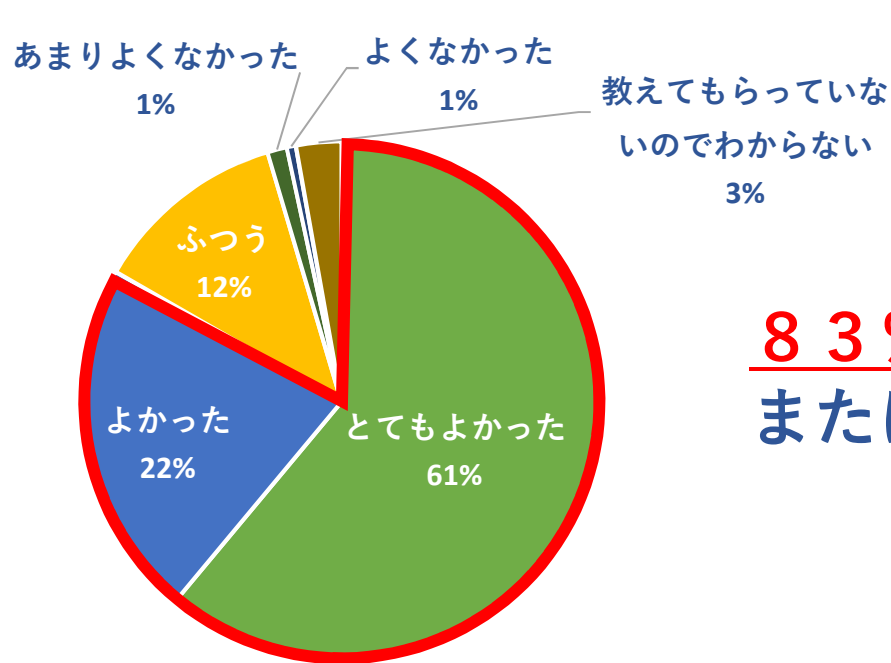
■とても思う ■思う ■ふつう ■あまり思わない ■ぜんぜん思わない

5. 令和4年度の取り組み内容

(2) アンケート調査の実施

① 児童アンケート (n=5,428)

iii) インストラクターの先生の教え方はどうでしたか。



83%の児童が「とてもよかった」または「よかった」と答えている。



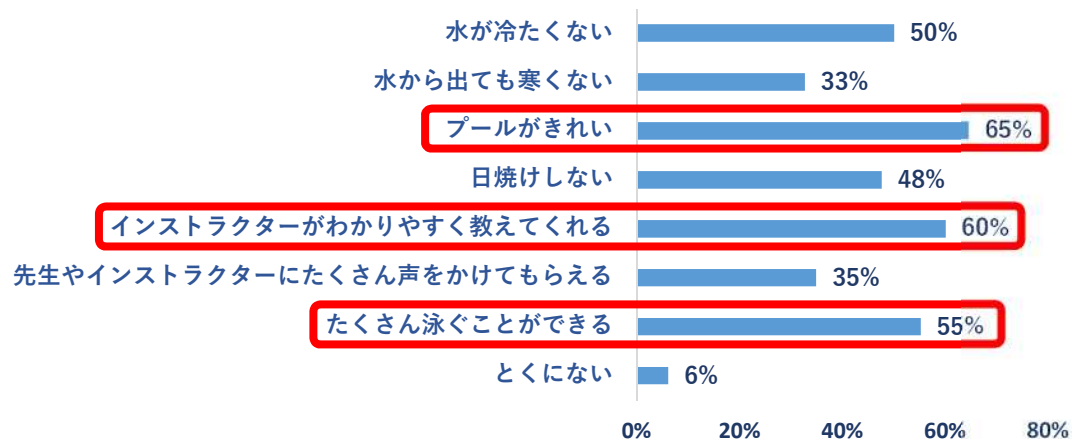
5. 令和4年度の取り組み内容

(2) アンケート調査の実施

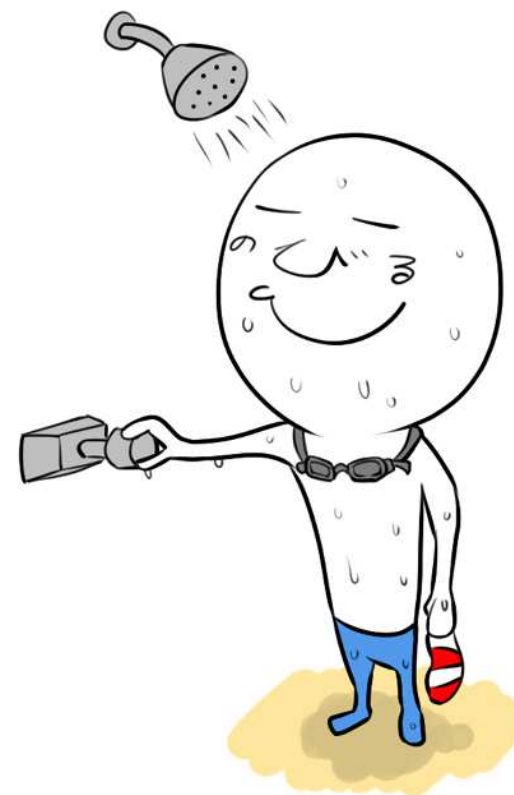
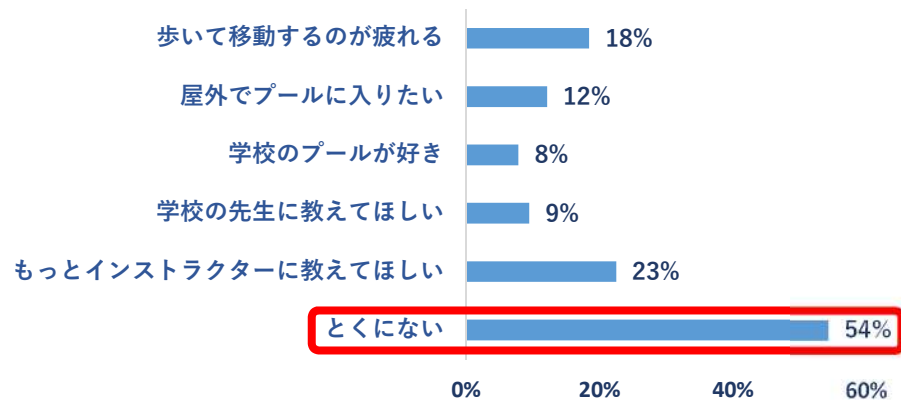
① 児童アンケート (n=5,428)

iv) 民間プール施設等を使ってよかったこと、よくなかったことについて

<よかったこと>



<よくなかったこと>

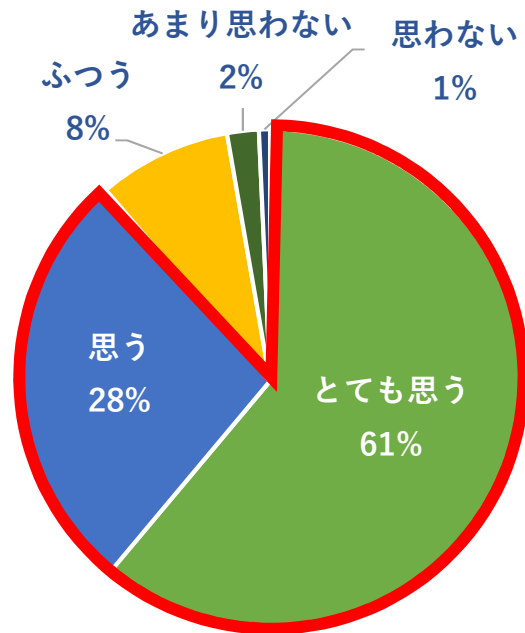


5. 令和4年度の取り組み内容

(2) アンケート調査の実施

②保護者アンケート（n=3,428）

i) 民間プール施設等での水泳授業を、お子さんは楽しく受けていたと思いますか。



民間プール施設等での水泳授業について、
89%の保護者が「子どもが楽しく授業を受けていた」と感じている。

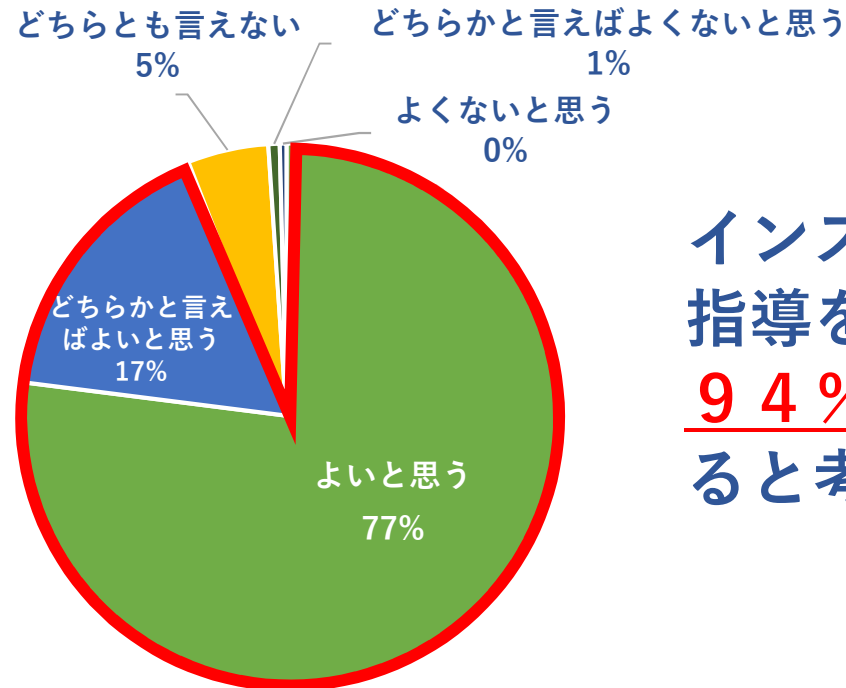


5. 令和4年度の取り組み内容

(2) アンケート調査の実施

②保護者アンケート（n=3,428）

ii) インストラクターによる専門的な指導を取り入れることで、教育効果が高まることについて



インストラクターによる専門的な指導を取り入れることについて、**94%**の保護者が教育効果が高まると考えている。



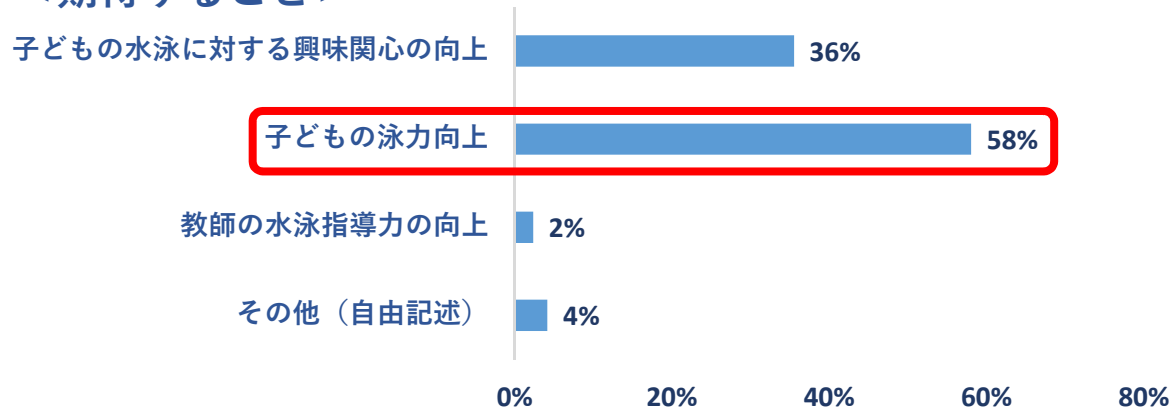
5. 令和4年度の取り組み内容

(2) アンケート調査の実施

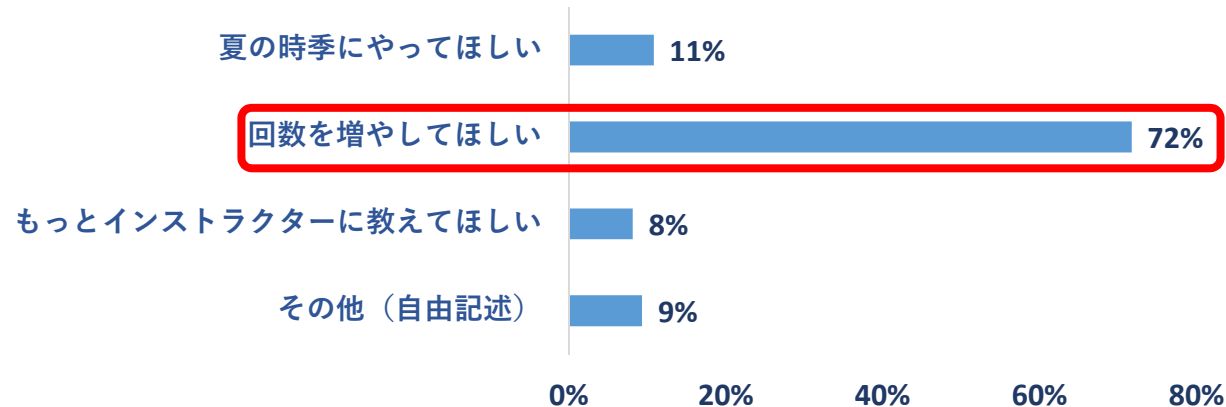
②保護者アンケート (n=3,428)

iv) 民間プール施設での水泳授業について期待すること、改善してほしいことについて

<期待すること>



<改善してほしいこと>

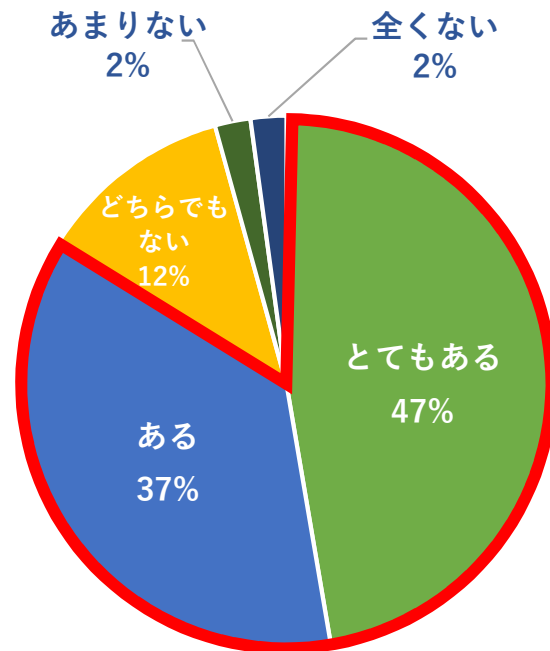


5. 令和4年度の取り組み内容

(2) アンケート調査の実施

③教員アンケート（n=93）

i) 水泳授業を民間プール等で行うことによる教育的効果について



民間プール施設等で水泳授業を行った教員の84%が、教育的効果が「とてもある」または「ある」と答えている。

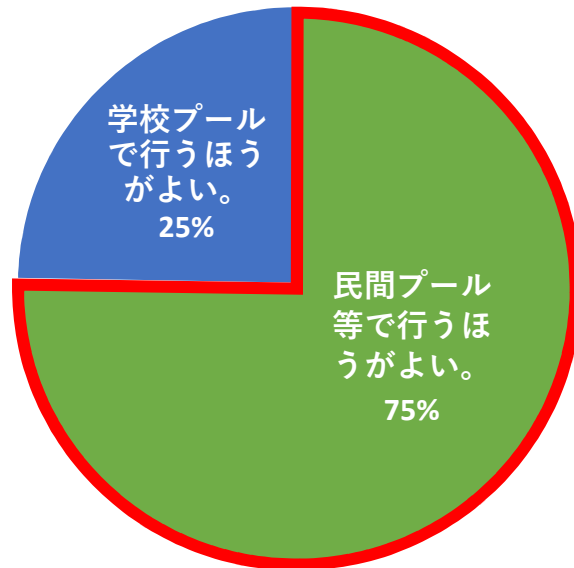
■とてもある ■ある ■どちらでもない ■あまりない ■全くない

5. 令和4年度の取り組み内容

(2) アンケート調査の実施

③教員アンケート（n=93）

ii) 民間プール施設等と学校プールと比べてどちらが望ましいかについて



民間プール施設等で水泳授業を行った方がよいと考えている教員は 75% を占めている。

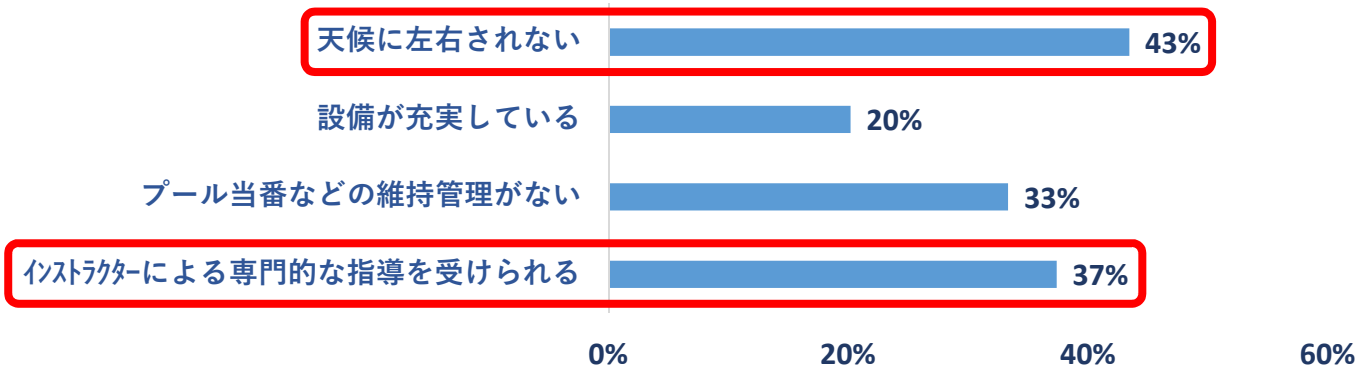
5. 令和4年度の取り組み内容

(2) アンケート調査の実施

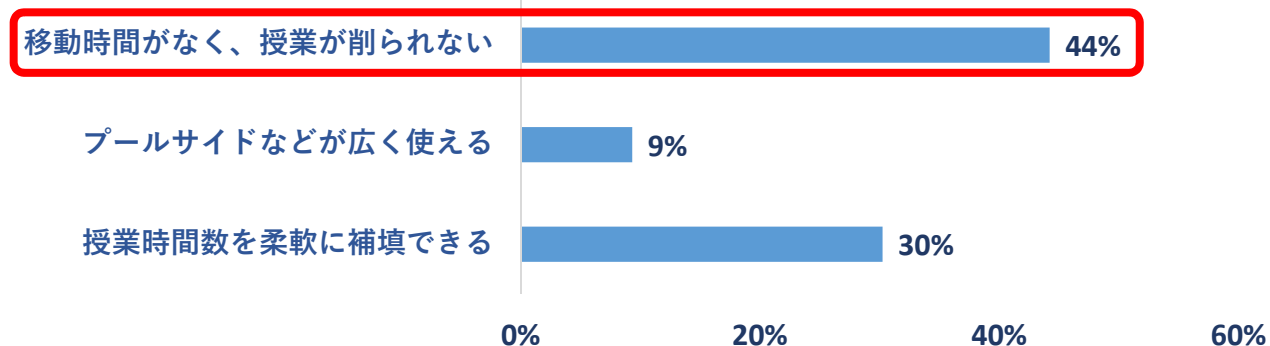
③教員アンケート (n=93)

iii) 民間プール施設等又は学校プール施設で水泳授業を行った方がよい理由について

<民間プール施設等の方がよい理由>



<学校プールの方がよい理由>



5. 令和4年度の取り組み内容

(3) 学校プール施設と民間プール施設等とのコスト比較

<学校プール施設1校当たり年間コスト>

約5,200千円

プールの耐用年数の目安を65年とし、建設から改修、解体までの施設費と、水道代などの運転費をあわせた学校プール施設の維持にかかる1校あたりのコスト

<民間プール施設等1校当たり年間コスト>

約4,200千円

R4年度に民間プール施設等において、全学年で水泳授業を実施した学校における施設利用やインストラクターにかかる経費、バスの借り上げ料、学校プール解体費(※)をあわせた1校あたりの平均コスト
※学校プール解体費は、耐用年数65年で算出

5. 令和4年度の取り組み内容

(4) 収穫

①本事業が好意的に受け取られたこと

- ・アンケートの結果から、本事業について、児童、保護者、教員の多くが好意的に捉えており、教育的効果が高いと認識している。

②泳力向上がみられたこと

- ・学校から「5年生の9割近くが25mを泳げるようになった。」「顔を水につけられなかった3年生が、4回の授業で15m泳げるようになった。」などの声が届いた。
- ・保護者アンケートにも、「顔に水がかかるのが怖かった我が子が、たった4回で顔つけ、顔つけしながらのバタ足までできるようになりました。」など、本事業に対する好意的な記述が多く見られた。



5. 令和4年度の取り組み内容

(4) 収穫

③事業者側の理解と協力が得られたこと

- ・ 民間プール施設等を運営する事業者及びバス会社の協力を得て、初めて成り立つ事業であることを共有することができた。
- ・ 本事業を民間と行政が一体となって進めていくことについて、確信が深まった。
- ・ 学校と施設が事前に綿密な打ち合わせを行ったことで、指導内容や役割分担等が明確になり、効果的な水泳授業を進めることができた。
- ・ 利用日数や利用時間について、当初計画より多くを本事業に充ててくれる施設が増えた。
- ・ 予定の変更について、民間プール施設等を運営する事業者及びバス会社ともに柔軟に対応してくれたため、順調に実施することができた。



5. 令和4年度の取り組み内容

(5) 令和4年度実施して見えたこと・対応策

①実施回数について

- ・ 4回では少ないと感じている保護者が一定数いる。
→実施回数は4回であるが、「1回あたり30分×2の指導時間が確実に確保できること」「実質8単位時間確保できていること」を、さらに周知していく必要がある。

②移動について

- ・ 体力面や天候面（暑さ）で、徒歩移動に対して心配する声がある。
→特に低学年や特別支援学級については、実施時期を調整するなど工夫する必要がある。
- ・ 実施校が増えた時のバスの確保について課題がある。
→バスの有効活用を検討する必要がある。



6. 実施校拡大に向けた今後の方向性

実施校拡大に向け、施設の受入状況やバスの確保が可能かどうかを踏まえ、以下の点について重点的に検討を進める。

① 午後の時間帯における水泳授業の実施を検討

② 自校プールでの水泳授業の継続も検討

(学校プール施設での水泳授業におけるインストラクターの派遣をあわせて検討)

③ 学校プール施設の跡地利用について、学校や地域にとって有効な活用方法を検討